

ピアノは馴染みが深い楽器ですが、現代のピアノ構造に至るまでの歴史やピアノ製作に関わる技術者については、意外と一般的には知られていません。本イベント前半では、1709年にイタリアで現在のピアノの原型が発明され、その後社会的、政治的、歴史的にもさまざまな背景を背負いながら発展してきたピアノの歴史を紹介し、後半では、2つの世界大戦をまったく激動の時代に生き、過酷な歴史に翻弄されながらもピアノ製造と技術者育成に生涯をかけた、ひとりの技術者についてのドキュメンタリー映画を鑑賞します。

### ピアノに魂は宿るのか？

もしそうなら、それは何なのだろう？ 捉えどころのないものなのか？それともその魂はピアノの製作者なのだろうか？1912年にカリシュで生まれたグストー・アーノルト・フィビゲル三世は、過酷な歴史に翻弄されながら、家業のピアノ製造とポーランドのピアノ技術者を生涯かけて育てた。教え子達が語る感動の物語。

### 「Calisia」 Arnold Fibiger (アーノルト フィビゲル)

1873年、カリシュに自分の工房を開き、1878年に最初のピアノを製作。第一次世界大戦、第二次世界大戦では大きな被害を受けたが1947年に再開。その後、Fibiger の会社は1948年に国有化され、社名は Calisia に変更。

フィビゲル家の最後の一人であるグストー・アーノルト・フィビゲル三世は、1953年 以来、かつて彼の家族が所有していた工場の総合製造責任になり、ほとんどのピアノのモデルを設計。その後、フィビゲルはピアノ製造技術学校を設立し、そこで講義を行い 1955年 から1964年 まで監督を務めた。(Calisia 2007年 生産停止)

